

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 生涯学習の充実
 基本事業 生涯学習機会の充実

事業名 **読書普及活動事業**

[0454]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	情報図書館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
<p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 市民</p>	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) おはなし会、科学教室、各種講演会などの開催。 ボランティア支援のための講習会等の実施。</p>
<p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) ・おはなし会を通じた幼児・児童への読書に関する興味の喚起。 ・おはなし会、人形劇などを地域活動を行うボランティア団体の活性化。</p>	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市民	人	123,537	123,054	121,987	122,564
対象指標2						
活動指標1	図書館主催おはなし会など開催回数	回	305	289	299	320
活動指標2						
成果指標1	読書普及事業の参加人数	人	5,743	3,929	4,032	5,500
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	229	191	212	525
正職員人件費 (B)		千円	1,675	1,672	1,660	1,666
総事業費 (A) + (B)		千円	1,904	1,863	1,872	2,191

費用内訳	
21年度	報償費 104千円、需用費 100千円、役務費 8千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	
--------	--	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・根拠は？

有償ボランティアから無償ボランティアへ移行した。市の役割は「養成」に限定すべきである。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・根拠は？

子どもへ読み聞かせ等を行い読書普及活動を行うことは、生涯学習機会の充実に貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・根拠は？

ボランティア活動の活性化や学校における読書事業などとの連携。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・根拠は？

学校におけるおはなし会開催団体との連携を深めることにより幅広い年齢を対象とした事業などを実施し、ボランティア団体の活動がより活発化される。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・根拠は？

有償ボランティアから無償ボランティアへ移行し、報償費の削減を行い必要最低限経費である。